

みんなが **幸せ** なまちにしたい

12月3日～9日は障がい者週間です

問い合わせ 福祉課 障がい福祉係(☎内線364)

障がい者週間とは？

障がい者福祉に関心と理解を深め、障がいのある人が社会・経済・文化など、あらゆる分野の活動に積極的に参加する意欲を高めることを目的に、毎年12月3日～9日を「障がい者週間」としています。

障がいは特別なことではありません

本市で身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳を所有している人は、4,260人(令和5年4月現在)。これはおおむね市内人口の約6%です。

障がいは生まれつきによるものだけではなく、ごなたでも事故や病気などにより人生の途中から障がいを持つ可能性があります。

本市では、「みんなが支え合い、共に幸せに暮らせる人権と福祉のまちづくり」を基本理念に、障がいのある人もない人も全ての人々がお互いを理解し尊重し合いながら、共に幸せに暮らせるまちづくりをめざしています。

ヘルプマークをご存じですか？

例えば人工関節を使用している人、目に見えない障がいや難病を持つ人、妊娠初期の人など、助けを必要とする人が、周囲に配慮を必要としていることを知らせるヘルプマーク。援助を受けやすくできるように作成されたもので、市役所ではヘルプマークの申し込みができます。

見かけたら席を譲ったり、困っていたら声をかけたり、災害時は避難を支援するなど、助け合いましょう。



夜間休日は、

障がい者・高齢者あんしんダイヤルへ

市役所や地域包括支援センターの対応時間以外に、福祉サービス・介護・医療などについて、看護師などの資格を持つ相談員に相談できます。障がい者や高齢者、その家族の皆さん、困ったときは気軽に利用してください。

対応時間

平日午後5時～翌午前8時30分、

土曜・日曜、祝日、年末年始

相談方法

☎ 0120(0874)86

おはなしはろー

障がい者雇用に関するアンケート調査

本市における障がい者雇用の現状を把握するために、障がい者雇用の状況やニーズなどに関するアンケート調査を行っています。

市内事業所の皆さん、協力してください

二次元コードを読み取り、アンケートページから回答してください。



世界に 羽ばたく アスリート



バドミントンを始めたきっかけは何ですか？

紋可さん:小学校にあった、ろう者のバドミントンクラブに参加したことがきっかけです。小学1年生から始めて、途中からは「聞こえる」人たちのクラブで練習するようになりました。

真衣さん:姉の影響で5歳から始めました。音声によるコミュニケーションが取れない中でプレーは大変なこともありました。

将来の目標を教えてください。

東京2025デフリンピックで金メダルを獲得することが現在の目標です。そのために、学生生活やアルバイトと両立しながら週3〜5日の練習に励んでいます。

紋可さん:来年は社会人として上京します。就職してからも、競技人生を続けたいです。

真衣さん:周りの友人たちも応援してくれているので、金メダル獲得に向けて頑張りたいです。

幸せを感じる時を教えてください。

紋可さん:食べることが好きなので、お店で外食することが楽しみです。

真衣さん:アイスクリームを食べるときです。抹茶やチョコ味がお気に入りです。

障がいがある人もない人もみんなが幸せな社会にするためには何が大事ですか？

紋可さん:困っている人を見つけたら、お互いに助け合うことが大切だと思います。

真衣さん:自分がされてうれしいことをほかの人にもする、相手への思いやりが大事だと思います。

やかべあやか
矢ヶ部紋可さん(写真右)
まい
真衣さん(写真左)

市内在住の大学4年生、1年生の姉妹。聴覚障がい者のデフバドミントン日本代表として世界大会に出場し、混合団体戦で準優勝。このほかにも、姉妹で出場した女子ダブルスでベスト8入賞、ユース大会で真衣さんが女子ダブルス、混合ダブルスで優勝。東京2025デフリンピックに向けて日々練習に取り組んでいます。

ひたむきに 輝く 中学生



柔道をやっていたうれしかったこと・つらかったことはありますか？

一番うれしかったのは、黒帯が取れたときです。試合をして点数を重ねて、合格することができました。つらいと思うことはありません。強くなりたいので、大変な練習も頑張れます。

将来の目標を教えてください。

全日本ID柔道大会*に出ること、そして勝つことです。高校生になっても、好きな柔道を続けたいです。

*15歳以上の知的障がい者が出場できる(公財)全日本柔道連盟主催の柔道大会。全国大会の先に世界大会がある。本年度第4回の開催となる。

幸せを感じる時を教えてください。

お気に入りのゲームをしたり、好きな芸能人のことを考えたりするときです。食べること、料理を作ること好きなので、お母さんの作ったごはんを食べる時間が幸せです。

障がいがある人もない人もみんなが幸せな社会にするためには何が大事ですか？

好きな人たちと好きなことをする時間です。自分にとって、それは仲間やお母さんと柔道することや食べることもあります。

さくらい
櫻井 ひよりさん

太宰府東中3年生。知的障がいを持ちながら小学6年生で柔道を始め、地区大会や県大会出場で経験を積み、本年8月初段に合格。自宅では、3きょうだいの長子で、家族思いのしっかり者。ひよりさんの影響で、お母さんも柔道を始めたそうです。

海外でも 活躍する 画家に



障がいがあることで、つらかったことや悩みはありますか？

幼い頃は、奇声をあげたり跳ね回ったりして1分たりともじっとできませんでしたので、周りから白い目で見られることもありました。

大人になった現在も、悪気のない行動が障がいを知らない人に誤解されて、かなしい思いをすることがあります。

将来の目標を教えてください。

太宰府市で太田宏介美術館を開き、絵を通じて元気や癒しを伝えたいです。また、海外でも活躍して、国内外から絵を見に来てもらえる画家になることが最大の目標です。

幸せを感じる時を教えてください。

絵を描くこと、泳ぐことです。プールには週6日、雪の日も欠かさず通っています。

障がいがある人もない人もみんなが幸せな社会にするためには何が大事ですか？

障がいでネガティブなイメージを持たれることが多いかと思います。絵を通じて活躍することが世の中を変えるかもしれません。知ってもらうことで障がいへの理解が広がり、みんなが幸せな社会になればと思います。

※兄の信介さんにも一緒にお話を聞きました。

おおた こうすけ
太田 宏介さん

2歳で知的障がいを伴う自閉症と診断される。10歳で絵と出会い、造形教室で本格的に学び、現在は画家として活躍中。兄の信介さんが絵画を販売・レンタルする事業を起業。これまでに全国各地で個展を開催、本年は台湾で初の海外個展にも挑戦。市役所玄関には宏介さんの絵が常時展示されています。